

## 令和4年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 福 島 県  
 農業委員会名： 伊達市農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

農業委員任命年月日	令和3年7月1日
推進委員委嘱年月日	令和3年7月16日

任期満了年月日	令和6年6月30日
---------	-----------

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	13
認定農業者に準ずる者	—	0
女性	—	1
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	24	24	5

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	3,868
農業経営体数	2,197

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	3,133
女性	1,288
40代以下	216

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	356
基本構想水準到達者	251
認定新規就農者	28
農業参入法人	18
集落営農経営	4
特定農業団体	0
集落営農組織	4

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,580	2,410				3,990

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	3,990 ha	1,317 ha	33.0 %
課題	農業従事者の高齢化、担い手不足が進み耕作できない農地が増加している。意欲ある担い手へ、また分散している農地の集約化を図るため、関係機関と農地中間管理機構がニーズ等の情報共有を図る等連携を密にし事業を行っていくことが必要である。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	11 年度	集積率	75 %
今年度の新規集積面積	210 ha	農地面積(C)	3,990 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	1,527 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	38.2 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	487.3 ha	90.2 ha	397.1 ha
課題	農業従事者の高齢化、担い手不足、有害鳥獣の被害拡大等による農業に対する意欲の低下、生産効率が悪い等の理由により、今後一層遊休農地が増加すると考えられる。 これらを防ぐため、遊休農地にならないようにする対策と、遊休農地になってしまったところについては、その解消に向けた対策の施策の検討が課題である。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	90.2 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	18.0 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	397.1 ha
--------------------------	----------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	関係機関と連携し、実施方法等の工程表の作成について検討する。
-------------------------	--------------------------------

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0 ha
---------------------------	------

### (3)新規参入の促進

#### ①現状及び課題

現状	元 年度新規参入者	2 年度新規参入者	3 年度新規参入者
	7 経営体	9 経営体	6 経営体
	5.9 ha	5.1 ha	3.4 ha
課題	新規参入者があるものの、集落営農の法人化や企業による農業参入が少ない。 研修の場の確保等、就農しやすい環境整備を整えることが課題である。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

#### ②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	94.8 ha	107.2 ha	113.1 ha	105.0 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する 農地の面積	10.5 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。))及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

### 2 最適化活動の活動目標

#### (1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6 日/月	最適化活動を行う 農業委員の人数	19 人
		農地利用最適化推進委員の 人数	24 人

#### (2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
R4. 8	②	遊休農地の発生防止、遊休農地の解消等に向けた利用意向の情報収集を行う。
R4. 9	②	遊休農地の発生防止、遊休農地の解消等に向けた利用意向の情報収集を行う。
R5. 1	②	遊休農地所有者に対し、今後の利用に関する調整活動を行う。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

#### (3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回
---------------	-----

開催時期	未 定	相談会名	ふくしま農業人フェア
参加者数	1	開催場所	未 定
相談会の内容	県が主催する新規参入相談会において、就農意向等の情報収集や相談を行う。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入  
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)